

國立成功大學  
110學年度碩士班招生考試試題

編 號： 28

系 所： 台灣文學系

科 目： 外文文學文獻解讀（日文）

日 期： 0202

節 次： 第 4 節

備 註： 不可使用計算機

※ 考生請注意：本試題不可使用計算機。請於答案卷(卡)作答，於本試題紙上作答者，不予計分。

一、翻譯下列文章至台語或中文。(30%)

皇民化への関与

上記、三者の論考における『民俗台湾』批判に共通しているのは、同誌が皇民化政策に対して、部分的な抵抗を見せながらも、大枠においては、皇民化に役立てることを念頭に置いていた、という批判である。池田敏雄が当局からの検閲を逃れるために、弾除けとして総督訓令などに意識的にふれていた、ということが事実であったかどうかは、厳密に言えば戦後の後付けである、といえなくもない。文章として残された雑誌の編集後記などからは、皇民化を全面的には否定しない雑誌の態度しか見えないのも事実である。しかし、編集後記以外の雑誌の構成などを見ると、ことは書かれている額面どおり受け取っていい、と想えるほど単純でもないようだ。

例えば、台湾漢人の投稿を積極的に促していることを考えておかななくてはならない。民族を語るヘゲモニーを植民地側の人間だけがもつのではなく、むしろ当事者を研究者として育成しようとした態度は、今日から見れば、先進的であったとすらいえる。また、小熊の述べており、このことによって、結果として『民俗台湾』が漢人に文化的アイデンティティを確認させる機能を果たし、ナショナリズムのはけ口になった、という点も見逃せない。

(三尾裕子編 2020『台湾における<日本>認識』風響社、pp208-209)

二、続上。作者對於『民俗台湾』皇民化立場の批判，贊成或是反對？請說明其贊成或反對的理由。又，請敘述自己的看法。(20%)

三、下記の引用文をわかりやすいマンガリンに訳してください(25%)

昔社頭は公衆で有名ばかりでなく、村全體が賭博場で、街がかなり殷賑であつた。社頭と鹿港は大きな道路が通つてゐた。血氣盛りの青年高猷榮は時々この社頭に出入りした。一府二鹿三艋舺と云はれてる臺灣第二の都會である郷里鹿港に居らずに、この田舎街によくその堂々たる體軀を表はしてきた理由は、官憲の目を胡麻化して安心して賭博ができるからである。もう一つは藝娼房が澤山あつて、そこでその若き血を躍らせた為めである。

(中略)

賭博場ではあの妖艶に着飾つた女が、微笑とあの魅惑的な目でお客を呼んでゐた。或る日彼はこのあらゆる誘惑に、とうとう打ち勝つことが出来なくて、商賣の資本金が賭博と女の為めに全部浪費してしまつた。今までさゝやかな資本で行商をやつてゐた彼は、販仔間(木賃宿)や友人の家に泊つ

たのであつたが、無一文になつた彼は、何處も泊めて呉れる者が無い世間の淺間しさを今更彼は憤慨せずには居られなかつた。

—蕭金鑽「高猷祭の若き日」、  
『臺灣文藝』第二卷第三號所収、1935 年、96～97 頁より—

四、下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください（25%）

國際的にみれば、同じ近代西欧文明との接触といつても、日本やロシヤのように独立国の地位を保ちながら接触した国と、植民地や従属国にされて接触を強いられた国とでは、その受容と反発の型に決定的な違いがあらわれる。前者はその受容が比較的容易で、西欧文明を技術面、制度面で選びとり、経済力や軍事力の発展などに利用し得たが、その反面、精神文化の面での対決が不十分となり、軽薄な模倣や混乱の時期を長くもつた。

これに対して、後者の中国、朝鮮、インド、アラブ世界などでは西欧文明全体を帝国主義支配と切り離して考えることはできず、外来文明と土着文化との徹底した対決がうまれた。このため思索は内向し、厳しい抵抗精神と自己定立への動きが顕著となった。インドのカンジーやネルー、中国の孫文や魯迅のような個性は、そうした民族の心を集約したものとしてあらわれ、西欧文明の虚偽意識や文明一元論から醒めた目で自国の文化と民衆とを見直すことができたのである。

—色川大吉「明治維新の民衆文化に対する影響」、  
『色川大吉著作集第三卷 常民文化論』、  
筑摩書房、1996 年、287 頁より—